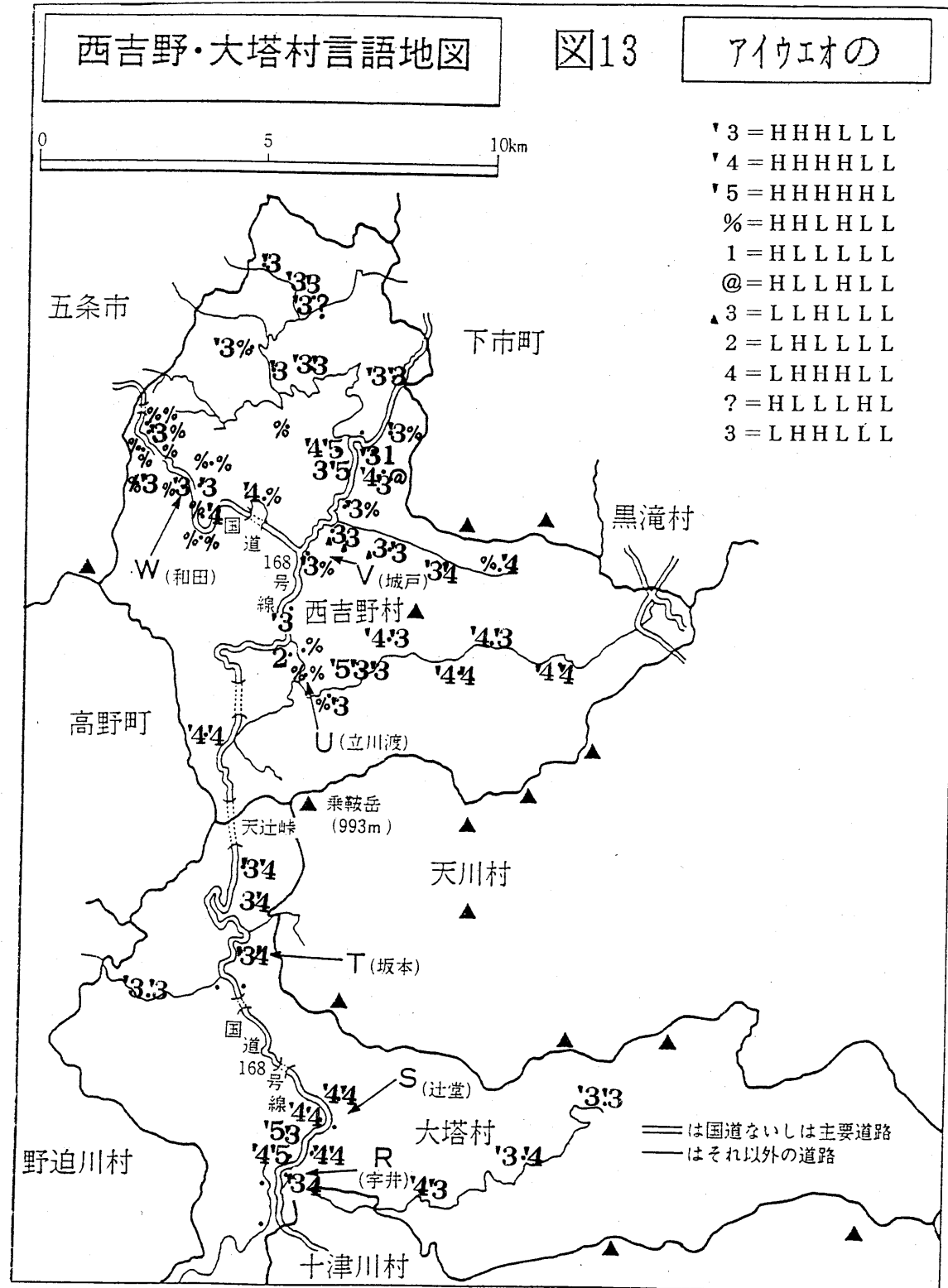


郡 史 郎



キーワード 大阪語、大阪らしさ、音声表現法、話し声、発声法

要旨： 大阪で活躍するタレント・芸能人82名を選び、そのしゃべりかたが大阪らしいしゃべりかたかどうかを問うイメージ調査をおこなった。その結果、まず、大阪府出身の回答者と近畿以外の出身の回答者群には、「大阪らしさ」を評価する際に差があるらしいことがわかった。ついで、大阪府出身の回答者の回答を分析したところ、ここでの「大阪らしさ」の判断基準はアクセントや文法ではなく、声質が軽度の「ダミ声」かどうかということではないかと思われた。すっきりとした声質の「アナウンサー声」の持ち主はアクセントや文法が大阪らしくても、しゃべりかたが非常に大阪らしいとは判断されなかった。

研究の目的と問題の背景

この研究の目的は、音声表現法における大阪らしさの解明である。

大阪出身者以外にはわかりづらいかもしれないが、語法やアクセントが大阪のそれであっても、いかにも大阪人のしゃべりかただとは必ずしも感じさせない。それでは、「いかにも大阪人」のしゃべり方だと感じさせるしゃべりかたとはいったい何がキーポイントになっているのだろうか。

他郷人に尋ねてみると、表現がどぎつという人もいれば、話題や話の内容、あるいは話の組み立てかたに特徴があるという人もいる。「まったりした」しゃべりかたと言う人もいる。表現法も、話題や内容等も、それがどのようにどぎつく、どのような特徴があるのかは検討を要する問題ではあるけれども、大阪らしさを形作る要因として重要であることには間違いなであろう。

一方、「まったりした」しゃべりかたというのは、音声面の特徴を指していると考えられる。筆者の経験から言っても、内容として、また表現としてほとんど同じことをしゃべっているのに、アクセント・語彙・文法のことを差し引いてもなお「大阪らしい」しゃべりかただと感じる話者とそうでない話者がいるように思う。

話題や話の組み立てかたといった話体的・文体的要素はひとまずおいて、音声そのものにおける大阪らしさの形成要因があるとすれば、それは何か。「まったりとした」しゃべりかたがそうなのだろうか。

りかたがそうなのだろうか。

本稿では、音声における大阪らしさの形成要因の探求の最初のステップとして、大阪を中心に活躍するタレント・芸能人のしゃべりかたの「大阪らしさ」についてイメージ調査を行なった結果を報告する。

ここで特にタレントのしゃべり方をとりあげたのには、多数の人が知っているという理由のほかに、以下のような背景がある。「漫才さん」や落語家をはじめ、大阪制作のテレビ・ラジオ番組の司会者やパーソナリティー等、大阪を拠点として活躍し、人気を有するタレントの多くは、大阪あるいは近隣地域出身であり、番組においても大阪語あるいはそれにきわめて近い言語を使っている。テレビ・ラジオには複数の特定の人気タレントが入れかわり立ちかわり登場してくる。このようなタレントの社会的地位は低くない。むしろ国会議員を輩出しているぐらいである。いわゆる「お笑い」タレントをめざす若者も多い。また視聴者もこうしたタレントについて、名前ばかりでなく出身地、所属事務所、場合によっては居住地にいたるまでの情報を、驚くほどよく知っている。ひとこと言えば、大阪の間人は彼らを非常に身近に感じているのである。したがって、こうしたタレントのしゃべりかたが、話題や話の組み立てかたはもちろん、アクセント・語彙・文法、そして以下で問題としたい音声表現法にいたるまで、視聴者のしゃべりかたに影響を与えていることが推測される。

彼らの出身地は大阪市・府と限らないが、ここでは「大阪らしさ」という点から考察を進める。

アンケートの方法

アンケートは、大阪を中心に活躍する、あるいは遠くない過去に活躍したタレント・芸能人のうちから82名をリストアップし(表1参照)、彼らのしゃべりかた、およびアンケート回答者自身のしゃべりかた(自己評価)の「大阪らしさ」の度合を5段階で評価するものである。

タレント等のリストの選定に際して格別の基準を設けたわけではないが、広く知られている人や特徴のあるしゃべり方をする人が欠けないように心がけた。しかし、その結果、必ずしも厳密な意味での大阪語を使うタレントばかりを集めたリストにはなっていない。さらに、純大阪弁タレントとの比較のためと、回答の信頼性を見るために、京都出身タレント数名、および、明らかに大阪のことばとは異なるタレントもわざと加えてある。ただし、このリストは特に網羅性を追求したものではないので、非常に有名でもこのリストにあげなかった人物もいる。

各タレントの出身地と生年は「現代上方演芸人名鑑」(相羽秋夫、少年社、1980)、「よしもと大百科」(吉本興業株式会社、データハウス、1987)等に基づいて各表に記した。

ただし、これらの資料では出身地とは出生地を指しているようである。実際の生育地がどこかについて調べがかった場合は生育地を表に記してある。それでもなお信頼性に欠ける場合もあるだろう。さらに、当然のことながら言語形成期を一地点で過ごしているとは限らないので、ここに記した「出身地」は一応のめやすに過ぎない。

アンケート実施にあたっては、回答者には個々のタレントがしゃべっている場面の音声は提示せず、各タレントの名前しか提示していない。本来この調査は音声を提示して、それを聞きながら「大阪らしさ」をアンケート調査するための準備調査として企画したものである。そのため、このアンケートでは、回答者がよく知らないタレントや、しゃべりかたを思い出せないタレントについては、回答しなくてよいことにした。このように、この調査は、あくまでそのタレントのことばのイメージを聞いているものである。

アンケートでは次のような指示を冒頭に印刷しておいた。

「大阪出身の人でも、いつも東京式の『共通語』をしゃべっている人もいますが、いまは主に大阪弁をしゃべる人のことを考えてください。

『大阪弁』しかししゃべらない人の中でも、いかにも大阪くさいというしゃべりかたをする人から、ことば(単語や言い回し)は確かに大阪なのだが、聞くとあまり大阪らしさを感じないという人までいろいろです。では、どんなしゃべりかたが『大阪らしい』のでしょうか。

いかにも『大阪』らしいしゃべりかたをする人といえどどんな人でしょうか。しゃべりかたの大阪らしさを『全然大阪らしくない(1)』から『これぞ大阪(5)』まで5段階に分けると、次のような人のしゃべりかたはどんな風になるのでしょうか、1、2、3、4、5のどれかにあたるマスに印をしてください。(大阪以外の出身の人も入っていますが参考のために印してみてください。)その人のことをよく知らなければどこにも印を付けて結構です。」

このように、このアンケートでは「しゃべりかたの大阪らしさ」の定義は、単語やいいまわしの特徴ではないことを間接的に指示した以外は回答者に与えず、あえて回答者自身の解釈に委ねた。語彙や文法的特徴を尋ねているわけでないことは理解されるであろう。しかし、実際の音声を聞かずに、それをどれだけ捨象可能かという問題がある。さらに、アクセントについて特に指示はしていないので、アクセントの大阪らしさについてのイメージを評価の規準にした回答者も当然いるだろう。アクセントについて指示しなかったのは、非専門家に「アクセント以外の音声面の特徴として大阪らしいこと」などと説明しても、こちらの意図が理解されるとは思えなかったからである。また、「大阪」の範囲にも解釈のあいまい性がある。例えば奈良出身の回答者は「大阪らしさ」とは「奈良ではない大阪らしさ」だと受け取る場合もあるかもしれないし、奈良出身の明石家さんまが自らのことばをも「大阪弁」と称するように、「自分を含めて広く関西に共通する性格」と理解

する場合もあると考えられる。

以上のように、音声表現法における大阪らしさを探るという目的に適切かどうかという点で本質的な問題を含んではいるが、この問題に関する何らかの手がかりが得られないかと考えて、このアンケートを実施した。

回答者は69名の関西在住者である。その内訳は男20、女49で、このうち大阪府出身者が23名(男4、女19)、大阪府以外の近畿地方出身者が29名(男6、女23)、近畿地方以外の出身者が11名(男9、女2)、近畿と近畿以外の間の移動者が6名(男1、女5)である。出身地の分類は8才から18才までの居住地に基づいた。回答者の年齢としては21~23才が19名(約3割)、24~29才が19名(約3割)、18才~20才が16名(約2割)、30才台が12名(2割)、40才台が3名であった。この種の調査としては回答者数が少ないかもしれないし、回答者の出身地と性別の関係が偏っているのは問題ではあるが、ここではこのままの資料を使い、何らかの傾向があらわれるかどうかを見ることにする。

結果と考察

概観

アンケートの回答は5段階の評定尺度であるから、序数尺度であるが、以下の議論では便宜上間隔尺度と同様に扱い、主に評定の平均値にもとづいて考察を進める。

回答者を、大阪府出身の回答者、大阪府以外の近畿地方出身の回答者、近畿地方以外の回答者群に分けて、その平均評定スコアを表1に示す。

まず、回答者自身についての「大阪らしさ」の評価の平均をみると、大阪府出身者は5段階で3.65に対し、大阪府以外の近畿地方出身者が2.62、近畿地方以外の出身者は1.45となった。

次に、回答者群間の回答パタンの相関関係を見るために、相関係数を算出した。すると、大阪府出身の回答者(主として女性)と、近畿ではあるが大阪府以外の出身の回答者(主として女性)の平均回答パターンには $r=.835$ のかなり高い相関がある。一方、大阪府出身の回答者(主として女性)と近畿以外の出身の回答者(主として男性)の平均回答パタンの相関は $r=.630$ でこの2つの相関度には有意差がある。

大阪府出身の回答者と近畿以外の出身の回答者の平均回答パタンの間の $r=.630$ という相関度はきわめて高いとは言えず、両グループの間には「大阪らしさ」の判定に差があることを思わせる。そこで、以下、大阪府出身の回答者と近畿以外の出身の回答者群に考察の対象を絞る。

表1: 「大阪らしい」しゃべりかたの5段階評価結果: 評価スコアの横の数値(かっこ内)は回答者数

	大阪府 出身者 (23名)	大阪府以外の 近畿の出身者 (29名)	近畿以外 の出身者 (11名)	大阪府出身者と 近畿以外の出身者の差	
(1) 横山やすし(堺市・S21)	4.43 (23)	4.75 (28)	4.64 (11)	-0.20	t(32)=-0.729
(2) 西川きよし(高知県・S19)	3.65 (23)	4.00 (28)	4.09 (11)	-0.44	t(32)=-1.233
(3) 若井こずえ(大阪市)	4.00 (18)	4.08 (24)	4.40 (5)	-0.40	t(21)=-1.083
(4) 若井みどり(大阪市)	4.00 (18)	4.00 (24)	4.40 (5)	-0.40	t(21)=-1.083
(5) 宮川花子(大阪市・S30)	4.17 (23)	4.07 (27)	4.50 (8)	-0.33	t(29)=-0.790
(6) 宮川大助(鳥取県・S25)	3.64 (22)	3.48 (25)	4.13 (8)	-0.49	t(28)=-1.108
(7) 西川のりお(奈良県・S26)	4.18 (22)	4.19 (27)	4.36 (11)	-0.18	t(31)=-0.562
(8) 上方よしお(守口市・S27)	3.72 (18)	3.68 (22)	4.00 (7)	-0.28	t(23)=-0.643
(9) オール阪神(泉大津市・S32)	4.00 (22)	3.73 (26)	4.33 (9)	-0.33	t(29)=-0.926
(10) オール巨人(大阪市・S26)	4.09 (22)	3.67 (27)	4.00 (9)	0.09	t(29)=0.244
(11) ダウダウ・浜田(尼崎市・S38)	3.82 (17)	3.73 (22)	3.63 (8)	0.20	t(23)=0.518
(12) ダウダウ・松本(尼崎市・S38)	3.76 (17)	3.71 (21)	3.63 (8)	0.14	t(23)=0.380
(13) ハビル・モモコ(大阪市・S39)	4.09 (22)	4.23 (26)	4.13 (8)	-0.03	t(28)=-0.088
(14) ハビル・リンゴ(枚方市・S36)	3.90 (21)	3.83 (24)	3.67 (6)	0.24	t(25)=0.559
(15) 中田ボタン(小豆島・S24)	4.11 (19)	3.74 (23)	4.20 (5)	-0.09	t(22)=-0.217
(16) 中田カウス(愛媛県・S23)	3.72 (18)	3.65 (23)	4.25 (4)	-0.53	t(20)=-0.946
(17) 西条凡児(T2)	4.00 (8)	3.89 (9)	2.00 (3)	2.00	t(9)=3.133 PK.05
(18) 前田五郎 (和歌山県~大阪市・S17)	3.75 (20)	3.48 (25)	3.40 (5)	0.35	t(23)=0.733
(19) 坂田利夫(大阪市・S16)	4.14 (21)	4.00 (27)	3.86 (7)	0.29	t(26)=0.757
(20) 島田紳助(京都市・31)	4.26 (23)	4.19 (27)	4.09 (11)	0.17	t(32)=0.568
(21) 松本竜助 (徳島県・大阪市・S31)	3.68 (19)	3.52 (25)	3.88 (8)	-0.19	t(25)=-0.436
(22) 太平サブロー(大阪市・S31)	3.80 (20)	3.58 (24)	4.00 (9)	-0.20	t(27)=-0.591
(23) 太平シロー(泉大津市・S31)	3.86 (21)	3.50 (24)	4.00 (9)	-0.14	t(28)=-0.440
(24) 夢路いとし(横浜市・T14)	4.32 (19)	3.96 (24)	3.50 (6)	0.82	t(23)=2.115 PK.05
(25) 喜味こいし(横浜市・S2)	4.32 (19)	4.00 (24)	3.67 (6)	0.65	t(23)=1.592
(26) 中田ダイマル (長崎県~尼崎市・T2)	4.36 (11)	3.62 (13)	3.33 (3)	1.03	t(12)=1.405
(27) 中田ラケット(T10)	4.36 (11)	3.62 (13)	3.33 (3)	1.03	t(12)=1.405
(28) 海原お浜(岡山県・T5)	4.36 (11)	3.82 (17)	4.50 (2)	-0.14	t(11)=-0.222
(29) 海原小浜(岡山県・T12)	4.20 (15)	3.90 (20)	4.50 (2)	-0.30	t(15)=-0.355
(30) 人生幸朗(大阪府・M40)	3.75 (12)	3.53 (17)	3.25 (4)	0.50	t(14)=0.707
(31) 正司敏江(小豆島・S19)	4.07 (15)	4.09 (22)	3.83 (6)	0.23	t(19)=0.567
(32) 正司敏江(北海道・S4)	4.07 (15)	4.13 (23)	3.50 (6)	0.57	t(19)=1.131
(33) 横山ノック(神戸・S7)	3.70 (23)	3.77 (26)	3.88 (8)	-0.18	t(29)=-0.447
(34) 新野新	3.56 (16)	3.47 (19)	2.75 (4)	0.81	t(18)=1.194
(35) やしきたかじん	3.95 (20)	3.56 (25)	3.29 (7)	0.66	t(25)=1.599
(36) ばんばひろふみ	3.21 (19)	2.84 (25)	3.13 (8)	0.09	t(25)=0.165
(37) 兵藤ゆき	1.76 (21)	2.13 (24)	1.89 (9)	-0.13	t(28)=-0.315
(38) 奥田博之	3.30 (10)	2.29 (7)	1.50 (2)	1.80	t(10)=2.257 PK.05
(39) 中村鋭一	3.59 (22)	3.38 (21)	3.25 (4)	0.34	t(24)=0.819
(40) 乾浩明	3.63 (19)	3.10 (21)	3.00 (1)	0.63	t(18)=0.688

表1 (続き) : 「大阪らしい」しゃべりかたの5段階評価結果

	大阪府 出身者 23名)	大阪府以外の 近畿の出身者 (29名)	近畿以外 の出身者 (11名)	大阪府出身者と 近畿以外の出身者の差	
(41) ミヤコ蝶々	4.27 (22)	3.72 (25)	4.30 (10)	-0.03	t(30)=-0.083
(42) 鳳啓介 (T12)	3.89 (18)	3.24 (25)	4.00 (8)	-0.11	t(24)=-0.252
(43) 京唄子 (S2)	4.00 (20)	3.92 (24)	3.50 (8)	0.50	t(26)= 1.363
(44) キダタロー (西宮)	3.90 (21)	3.46 (24)	3.67 (6)	0.24	t(25)= 0.770
(45) 岸部シロー (京都)	3.21 (19)	2.55 (22)	2.89 (9)	0.32	t(26)= 0.765
(46) 坂東英二 (徳島)	2.91 (22)	3.04 (27)	2.73 (11)	0.18	t(31)= 0.501
(47) 和田アキ子 (大阪)	3.14 (21)	2.41 (27)	1.82 (11)	1.32	t(30)= 4.137 p<.001
(48) 藤本義一	3.37 (19)	2.88 (24)	2.78 (9)	0.59	t(26)= 1.460
(49) 藤本統紀子	3.13 (15)	2.45 (22)	2.33 (3)	0.80	t(16)= 1.120
(50) 石井光三 (京都市・S6)	3.82 (17)	3.17 (18)	4.20 (5)	-0.38	t(20)=-0.718
(51) 中山千夏 (大阪)	2.69 (13)	2.45 (20)	1.71 (7)	0.98	t(18)= 1.879
(52) 桂米朝 (満州~姫路・T14)	4.33 (18)	4.26 (23)	4.29 (7)	0.05	t(23)= 0.167
(53) 桂春団治 (大阪市・S5)	3.80 (10)	4.06 (18)	3.50 (2)	0.30	t(10)= 0.385
(54) 桂小文枝 (大阪市・S5)	4.20 (15)	3.84 (19)	3.00 (1)	1.20	t(14)= 1.500
(55) 笑福亭松鶴6代目 (大阪市・T7)	4.15 (13)	4.13 (16)	3.60 (5)	0.55	t(16)= 1.276
(56) 桂枝雀 (大阪市)	3.90 (20)	3.73 (22)	4.29 (7)	-0.39	t(25)=-1.125
(57) 桂べかこ (奈良県五条市・S26)	4.19 (21)	4.15 (26)	4.43 (7)	-0.24	t(26)=-0.676
(58) 桂ざこば (大阪市・S22)	4.25 (20)	4.33 (24)	4.29 (7)	-0.04	t(25)=-0.104
(59) 桂春蝶 (大阪市・S16)	4.06 (18)	3.86 (21)	2.50 (2)	1.56	t(18)= 2.881 p<.01
(60) 桂三枝 (堺市・S18)	3.68 (22)	3.54 (26)	3.60 (10)	0.08	t(30)= 0.210
(61) 笑福亭仁鶴 (大阪市・S12)	4.15 (20)	4.04 (24)	3.78 (9)	0.37	t(27)= 1.132
(62) 笑福亭鶴瓶 (大阪市)	4.20 (20)	4.25 (28)	3.70 (10)	0.50	t(28)= 1.555
(63) 遥洋子 (大阪市・S36)	3.17 (12)	3.21 (19)	3.80 (5)	-0.63	t(15)=-0.972
(64) 笑福亭鶴光	4.10 (20)	4.12 (25)	3.89 (9)	0.21	t(27)= 0.493
(65) 月亭八方 (大阪市・S23)	4.09 (22)	4.37 (27)	3.90 (10)	0.19	t(30)= 0.634
(66) 桂きん枝 (大阪市・S26)	3.83 (18)	3.91 (23)	3.86 (7)	-0.02	t(23)=-0.062
(67) 花紀京 (大阪市・S12)	4.00 (15)	4.26 (19)	4.00 (3)	0.00	t(16)= 0.000
(68) 岡八郎 (尼崎市・S13)	4.06 (18)	4.24 (21)	4.00 (6)	0.06	t(22)= 0.115
(69) 間寛平 (高知県・S24)	3.40 (20)	3.80 (25)	4.00 (6)	-0.60	t(24)=-1.041
(70) 原哲男 (熊本県・S9)	3.50 (14)	3.95 (20)	4.00 (2)	-0.50	t(14)=-0.560
(71) 山田スミ子 (大阪市)	4.00 (18)	4.08 (24)	2.75 (4)	1.25	t(20)= 2.220 p<.05
(72) 明石家さんま (奈良県・S30)	4.09 (23)	4.18 (28)	3.55 (11)	0.54	t(32)= 1.760
(73) 桂文福 (和歌山県・S28)	3.50 (12)	3.88 (24)	3.50 (2)	0.00	t(12)= 0.000
(74) 桂文珍 (兵庫県多紀郡・S24)	3.78 (23)	3.79 (28)	3.50 (10)	0.28	t(31)= 0.808
(75) 上岡龍太郎 (京都市・S17)	3.74 (19)	3.52 (25)	3.78 (9)	-0.04	t(26)=-0.099
(76) 浜村淳 (京都市・S10)	2.82 (22)	2.92 (26)	3.67 (9)	-0.85	t(29)=-2.297 p<.05
(77) 今いくよ (京都市・S22)	3.48 (21)	3.79 (28)	3.45 (11)	0.02	t(30)= 0.053
(78) 今くるよ (京都市・S22)	3.45 (20)	3.78 (27)	3.36 (11)	0.09	t(29)= 0.221
(79) 清水圭 (宇治市・S36)	3.36 (14)	3.62 (21)	3.00 (6)	0.36	t(18)= 1.156
(80) 和泉修 (京都市・S37)	3.27 (15)	3.50 (20)	3.00 (6)	0.27	t(19)= 0.623
(81) 三田寛子 (京都)	2.45 (22)	2.00 (25)	2.55 (11)	-0.09	t(31)=-0.222
(82) お天気の福井さん (徳島)	2.50 (18)	1.92 (26)	2.43 (7)	0.07	t(23)= 0.113
(83) 回答者自身	3.65 (23)	2.62 (29)	1.45 (11)	2.20	t(32)= 6.658 p<.001

大阪府出身の回答者と近畿以外の出身の回答者群の評価の差

各タレントについて、両回答者グループの評価の差とt値を表1最右欄に示した。西条凡児、夢路いと、奥田博之、和田アキ子、桂春蝶、山田スミ子、浜村淳の各氏(敬称略)については両回答者グループで有意差(p<.05)が現われた。このうち奥田博之と和田アキ子はアクセントと文法を東京式と大阪式に使い分けたり(和田)、混在させており(奥田)、大阪出身の回答者はこのふたりの大阪的などころだけがイメージにあり、近畿以外の出身の回答者は逆に東京的などころがイメージとして強いということであろうか。浜村淳については、大阪出身者の間では、彼が京都出身であることがかなり広く知られているのではないかと考えられるから、「京都≠大阪」という判断が働いたのではないか。あるいは、浜村淳は京都ということとは別に、独特の個性の強い話調スタイルをもっており、それが大阪人にとっては典型的な「大阪らしさ」とは違うと考えられても、よそのものには典型的な関西風のしゃべりかたとはこんなものかと思わせるのかもしれない。

一方、大阪出身者と他郷人では、何をもって「大阪らしい」と言うかの基準が異なることも十分想像できる。大阪人にとってみれば、ことばづかひやアクセントだけが大阪のものであっても「大阪らしい」しゃべりかたと「大阪らしく」ないしゃべりかたの区別ができるかもしれないが、他郷人にとってみれば、ことばづかひやアクセントさえ大阪らしければ、それだけで十分「大阪らしい」しゃべりかたに聞こえるということがあろう。

いずれにせよ、大阪府出身の回答者と近畿以外の出身の回答者群には、「大阪らしさ」を評価する際に差があるということは言えそう。

大阪府出身の回答者の評価

他郷人が「大阪らしい」と判断する基準は何かを探ることも興味深い問題ではあるが、大阪人が大阪らしいと認めるしゃべりかたこそ真に「大阪らしい」ものと言えるだろうから、以下では大阪府出身の回答者23名の回答に限って考察を進める。

表2は、大阪府出身の回答者による「大阪らしさ」評価が高い順にタレント等を並べかえたものである。回答率そのものは、有名ではあるが現在すでにテレビラジオに出ていないタレントや、出てきてまだあまり間がないタレントを除くと、どのタレントについても高い。

平均評価を見ると、82名のうち上位38名の各々の「大阪らしさ」スコアの間には互いに有意の差はなく(p>.05)、36名がひとつのグループを成している。しかしこのうちでも特に上位の10名は55位以下のタレントのほとんどに対して大阪らしさスコアが有意に高く(p<.05)、もつとも大阪らしいしゃべりかたをすると判断されたグループと言えよう。この上位10名とは、横山やすし、中田ダイマル、中田ラケット、海原お浜、桂米朝、夢路いと、喜味こいし、ミヤコ蝶々、島田紳助、桂ざこばである。この10名に次

表2： 大阪府出身の回答者の評価（評価の高い順）

	らしさ (5段階)	S.D.	min max	回答率
[1] 横山やすし(堺市・S21)	4.43	(0.77)	3<5	100%
[2] 中田ダイマル(長崎県~尼崎市・T2)	4.36	(0.77)	3<5	48%
[3] 中田ラケット(T10)	4.36	(0.77)	3<5	48%
[4] 海原お浜(岡山県・T5)	4.36	(0.77)	3<5	48%
[5] 桂米朝(満州~姫路・T14)	4.33	(0.67)	3<5	78%
[6] 夢路いとし(横浜市・T14)	4.32	(0.65)	3<5	83%
[7] 喜味こいし(横浜市・S2)	4.32	(0.65)	3<5	83%
[8] ミヤコ蝶々	4.27	(0.86)	2<5	96%
[9] 島田紳助(京都市・S1)	4.26	(0.79)	3<5	100%
[10] 桂ざこば(大阪市・S22)	4.25	(0.77)	3<5	87%
[11] 海原小浜(岡山県・T12)	4.20	(1.11)	1<5	65%
[12] 桂小文枝(大阪市・S5)	4.20	(0.75)	3<5	65%
[13] 笑福亭鶴瓶(大阪市)	4.20	(0.75)	3<5	87%
[14] 桂べかこ(奈良県五条市・S26)	4.19	(0.79)	2<5	91%
[15] 西川のりお(奈良県・S26)	4.18	(0.78)	3<5	96%
[16] 宮川花子(大阪市・S30)	4.17	(0.96)	2<5	100%
[17] 笑福亭松鶴6代目(大阪市・T7)	4.15	(0.86)	3<5	57%
[18] 笑福亭仁鶴(大阪市・S12)	4.15	(0.65)	3<5	87%
[19] 坂田利夫(大阪市・S16)	4.14	(0.77)	3<5	91%
[20] 中田ボタン(小豆島・S24)	4.11	(0.91)	2<5	83%
[21] 笑福亭鶴光	4.10	(0.94)	2<5	87%
[22] オール巨人(大阪市・S26)	4.09	(0.85)	2<5	96%
[23] ハイヒール・モモコ(大阪市・S39)	4.09	(0.90)	2<5	96%
[24] 月亭八方(大阪市・S23)	4.09	(0.73)	3<5	96%
[25] 明石家さんま(奈良県・S30)	4.09	(0.88)	2<5	100%
[26] 正司敏江(小豆島・S19)	4.07	(0.85)	2<5	65%
[27] 正司歌江(北海道・S4)	4.07	(1.06)	1<5	65%
[28] 桂春蝶(大阪市・S16)	4.06	(0.70)	3<5	78%
[29] 岡八郎(尼崎市・S13)	4.06	(0.91)	2<5	78%
[30] 若井こずえ(大阪市)	4.00	(0.75)	3<5	78%
[31] 若井みどり(大阪市)	4.00	(0.75)	3<5	78%
[32] オール阪神(泉大津市・S32)	4.00	(0.90)	2<5	96%
[33] 西条凡児(T2)	4.00	(0.87)	3<5	35%
[34] 京唄子(S2)	4.00	(0.89)	2<5	87%
[35] 花紀京(大阪市・S12)	4.00	(0.97)	2<5	65%
[36] 山田スミ子(大阪市)	4.00	(0.88)	2<5	78%
[37] やしきたかじん	3.95	(0.74)	3<5	87%
[38] ハイヒール・リンゴ(枚方市・S36)	3.90	(0.87)	3<5	91%
[39] キダタロー(西宮)	3.90	(0.68)	3<5	91%
[40] 桂枝雀(大阪市)	3.90	(0.83)	2<5	87%

表2(続き)： 大阪府出身の回答者の評価（評価の高い順）

[41] 鳳啓介(T12)	3.89	(0.99)	2<5	78%
[42] 太平シロー(泉大津市・S31)	3.86	(0.71)	3<5	91%
[43] 桂きん枝(大阪市・S26)	3.83	(0.90)	2<5	78%
[44] ダウンタウン・浜田(尼崎市・S38)	3.82	(0.86)	3<5	74%
[45] 石井光三(京都市・S6)	3.82	(1.10)	2<5	74%
[46] 太平サブロー(大阪市・S31)	3.80	(0.75)	3<5	87%
[47] 桂春団治(大阪市・S5)	3.80	(0.98)	2<5	43%
[48] 桂文珍(兵庫県多紀郡・S24)	3.78	(0.72)	3<5	100%
[49] ダウンタウン・松本(尼崎市・S38)	3.76	(0.81)	3<5	74%
[50] 前田五郎(和歌山県~大阪市・S17)	3.75	(0.94)	2<5	87%
[51] 人生幸朗(大阪府・M40)	3.75	(1.09)	1<5	52%
[52] 上岡龍太郎(京都市・S17)	3.74	(1.02)	2<5	83%
[53] 上方よしお(守口市・S27)	3.72	(0.93)	2<5	78%
[54] 中田カウス(愛媛県・S23)	3.72	(1.04)	1<5	78%
[55] 横山ノック(神戸・S7)	3.70	(0.80)	2<5	100%
[56] 松本竜助(徳島県・大阪市・S31)	3.68	(1.03)	2<5	83%
[57] 桂三枝(堺市・S18)	3.68	(0.92)	1<5	96%
[58] 西川きよし(高知県・S19)	3.65	(1.05)	1<5	100%
[59] 回答者自身	3.65	(0.87)	2<5	100%
[60] 宮川大助(鳥取県・S25)	3.64	(1.02)	1<5	96%
[61] 乾浩明	3.63	(0.87)	2<5	83%
[62] 中村鋭一	3.59	(0.72)	2<5	96%
[63] 新野新	3.56	(1.17)	1<5	70%
[64] 原哲男(熊本県・S9)	3.50	(1.18)	1<5	61%
[65] 桂文福(和歌山県・S28)	3.50	(0.76)	2<5	52%
[66] 今いくよ(京都市・S22)	3.48	(1.01)	1<5	91%
[67] 今くるよ(京都市・S22)	3.45	(0.97)	1<5	87%
[68] 間寛平(高知県・S24)	3.40	(1.20)	1<5	87%
[69] 藤本義一	3.37	(0.81)	2<5	83%
[70] 清水圭(宇治市・S36)	3.36	(0.61)	2<4	61%
[71] 奥田博之	3.30	(1.00)	1<5	43%
[72] 和泉修(京都市・S37)	3.27	(0.93)	1<5	65%
[73] ばんばひろふみ	3.21	(1.15)	1<5	83%
[74] 岸部シロー(京都)	3.21	(1.15)	1<5	83%
[75] 遥洋子(大阪市・S36)	3.17	(1.21)	1<5	52%
[76] 和田アキ子(大阪)	3.14	(0.89)	1<5	91%
[77] 藤本統紀子	3.13	(1.15)	1<5	65%
[78] 坂東英二(徳島)	2.91	(0.85)	2<5	96%
[79] 浜村淳(京都市・S10)	2.82	(1.03)	1<4	96%
[80] 中山千夏(大阪)	2.69	(1.14)	1<5	57%
[81] お天気のお福井さん(徳島)	2.50	(1.34)	1<5	78%
[82] 三田寛子(京都)	2.45	(1.08)	1<4	96%
[83] 兵藤ゆき	1.76	(0.97)	1<4	91%

いで大阪らしいと判断されたのが、11位から25位までの、海原小浜、桂小文枝、笑福亭鶴瓶、桂べかこ、西川のりお、宮川花子、笑福亭松鶴、笑福亭仁鶴、坂田利夫、中田ボタン、笑福亭鶴光、オール巨人、ハイヒール・モモコ、月亭八方、明石家さんまである。中田ダイマル・ラケット、および夢路いとし・喜味こいしの各コンビの相方どうしは回答者全員が同スコアをつけたが、これは現在彼らをテレビラジオで見聞きする機会がほとんどなく、コンビのどちらがどちらか定かでない回答者が多かったようなので、個人ではなくコンビ全体に対するイメージを回答したためかと考えられる。しかも、アンケート用紙の回答欄にはひとつのコンビの相方の名前は連続して記されていたという事情もある。海原お浜・小浜のふたりのスコアの近さも同様に解すべきであろう。しかし同じコンビでも相方どうしのスコアがかなり違う場合もある。やすし・きよしの場合がその典型である（平均スコアの差は.78、有意差あり(p<.01)）。

一方、もっとも大阪らしくないと判断されたのは、このリスト中唯一誰が聞いてもすぐに大阪のことばでないことがわかる兵藤ゆき（名古屋出身）で、リスト中の他のすべてタレントよりも有意に評価が低い。これに次ぐのが、三田寛子、天気予報の福井さん（この2名は上位70名との有意の差がある(p<.05)）、さらに中山千夏、浜村淳、坂東英二（以上3名は上位62名との有意差がある(p<.05)）、藤本統紀子、和田アキ子、遙洋子、岸部シロー、ばんばひろふみ、和泉修、奥田博之、清水圭、藤本義一（以上は上位40名との差が有意）であった。

大阪らしいしゃべりかたの形成要素

それでは、ここで大阪府出身の回答者により「大阪らしい」と判定されたタレントのしゃべりかたと「大阪らしくない」と判定されたタレントの話しかたを比較した場合、いったい何が違うのだろうか。「大阪らしい」と判断されたタレントにはアクセントや文法が100%関西的でない者がおり（海原お浜、夢路いとし）、一方、アクセント的には大阪であるのに、ばんばひろふみ、遙洋子などのしゃべりかたは「大阪らしくない」と判断されていることから、ここでの「大阪らしい」しゃべりかたの判断基準はアクセントや文法ではないと思われる。

大阪らしい話し方の特徴として、「まったりした」しゃべりかたということを使う人がいる。「まったりした」しゃべりかたとは、母音の無声化の程度や母音子音の持続時間のバランスの問題のような持続時間に関する特徴が主で、これにアクセントによる音高の上下動の大きさというような音調的要因が加わったものではないかと、筆者は仮説的に考えている。しかし、いずれにせよ、このアンケートの結果「大阪らしさ」が強いと思われるタレントの話しかた、いわゆる「まったりした」しゃべりかたに相関関係があるとは考え

にくいのではないかと思う。

ここで、海原お浜や夢路いとしのような声と、ばんばひろふみ、遙洋子の声を声質という点から比べてみると、前者は軽度の「ダミ声」、あるいはやや濁った声であり、後者はすっきりとした「アナウンサー声」であるように思われる。「ダミ声」は大阪らしさ得点の高い他の多くのタレント（横山やすし、中田ダイマル・中田ラケット等）に共通するよう思われる。軽度のダミ声が「大阪らしさ」の形成要素になっているのではないだろうか。ただし、たとえダミ声が「大阪らしさ」の要素であるとしても、それはひとつの大阪らしさであって、ダミ声でなければ大阪らしくないというわけではないであろう。さらに、逆に過度のダミ声は逆に大阪らしさを損なうのではないだろうか。（注）

なお、このアンケートで「大阪らしくないしゃべりかた」と判断されたタレントの中には、先述のようにアクセント的にも話の内容・構成的にも大阪らしいと思われるのに「すっきりしたアナウンサー声」の持ち主であるタレントの他、アクセントと文法、そしておそらくは話の内容・構成的をも東京式と大阪式に使い分けたり混在させている奥田博之、和田アキ子、また語音が大阪らしくない天気予報の福井さん（「ゼ」→「ジェ」）、あるいはアクセント・文法的にも大阪らしくない兵藤ゆき、出身地が大阪でないことが広く知られていると思われる浜村淳、など、いくつか異なるケースが含まれていると考えられる。

展望

本稿では、アンケート調査にもとづき、しゃべりかたにおける大阪らしさを構成する要因として、軽度の「ダミ声」という発声法に関わる要因があるのではないかと推定した。この推定が妥当であるか否かは今後聞き取り実験等によって証明されるべき問題である。具体的には、まず声質が「大阪らしさ」の要因であるかどうかを確かめるために、タレントではなくしろうとで大阪らしい話し方をする大阪人の声を対象にし、「ダミ声」、「とおる声」、「硬い声」、「キンキン声」なども含め、いくつか声質のスケールを用意し、話し声を聞きながらそのスケール上で声質を評価するような調査が考えられる。また、ダミ声そのものについては、ダミ声の程度を合成音上で制御することができれば、それを使った聞き取り実験が可能であるが、果して「ダミ声」の音響的相関物を同定できるかという問題を先に解決しなければならない。

一方、「まったりした」しゃべりかたについても、このアンケート結果と「まったりした」しゃべりかたの間に相関関係があるとは考えにくいと思われるが、さらに検討をする必要がある。

謝辞

これは近畿音声言語研究会月例研究会で報告した内容をまとめなおしたもので、「展望」の部分で述べた問題点は同研究会参加の方々のご意見に負うところが大きい。記して感謝いたします。

アンケートに協力していただいた同研究会メンバー、ATR、聖和短大、賢明女子学院短大、阪大、樟蔭女子大、大阪外大をはじめ多くの皆様に御礼申し上げます。

注

劇作家・演出家として知られた久保栄は、日本の発声法について独特の系譜論を展開している（「久保栄演技論講義」山田善靖（編）、三一書房、1976）。その骨子は、生活様式により発声法が異なるという指摘であるが、発声法に地域差があるという点では本稿の考え方と共通するものである。ただし、久保は各種の発声法の差をすべて「通鼻音発声」対「のど声」という声楽的な観点から見ると、京都是一千年にわたる皇城の地であり、特権階級は労働を伴わない、きらびやかな、とりすました生活から貴族的優美さをつくりだしたが、彼らは発声法に骨が折れるほうが高貴であり文化的であるがゆえに「通鼻音発声」を行なっていたところ、下層民がこれを真似したというような見方である。また、「関東声」（東声・鎌倉声）はのど声であって、それは鎌倉武士が当時下層階級の農民であることに由来するとも言う。大阪については、徳川幕府が鎌倉を大阪に復活させようとしたため、生活様式が鎌倉をまねたものとなり、発声も東声に似ているが、それとはどこか違う独特ののど声であるとする。このほか、鎌倉声が時代とともに通鼻発声化したという「江戸声」、あるいは、「ものすごいドラ声」である「薩長声」が天下を取って通鼻発声化したという「明治声」など様々な「声」を区別している。

京都方言における人名のアクセント

中井 幸比古

キーワード：京都方言・人名・アクセント

要旨 京都アクセントの記述の一環として、人名のアクセントの記述と資料提示を行なう。世代差・昇格現象との関係・共通語化などについても触れる。

1. はじめに

表題の事柄について記述を行なう。本稿は「姓」ではなく「given name」のみを扱う。以下本稿で、「人名」は「given name」のみをさす。なお、筆者は既に京都アに関する記述として、中井(1989。外来語ア)とNakai(近刊。姓のア)を書いたので、本稿は第3報である。これらの拙稿はやや新味に欠ける。

話者・調査方法・調査の進捗状況・記述の手順や先行文献は、拙稿(近刊)にほぼ同じ。外国人名のアは外来語一般に準ずる故略す。なお、話者の略称は拙稿(1989)に従う。高起式の「コ」は略。資料のソートは福井玲氏開発のXSORTによったが、一旦ソートした後、手作業で動かしたので配列がやや不規則。(上記近刊論文も同じ)。

人名の表記は多様である。例えば、「タツゾー」には「達三、竜蔵、辰造…」などがある。しかし、表記がアに影響を与えることはほとんどないので、原則として調査票の第一番目の表記のみを掲げる。(調査票には二通りの表記をあげた場合が多い)。

2. 2モーラ

2.1 男の人名・女の人名、雅号の類、すべて全員1で個人差もない。

2.2 但し、例外として次のような場合がある。

よく知られているように(例えば天沼1940)、男の人名の略称は τ_2 が伝統的なアである。例えば、「敏夫」(0)を「トシ」と略せば τ_2 。但し、2.4参照。拙稿(1988)p.49に書いた女性人名の τ_2 は、その後<大佐田>でも確認済。他の老年層の話者にもあろう。

なお、人間ではないが、伝統的な犬猫の名には、主に老年層に τ_2 が現れる。拙稿pp.80-81「白、黒、赤」を参照。一部の話者のみの調査だが、老年層で「たま」は人間の女の名なら1が多く、猫なら τ_2 のみという人が多い(筆者や若年層一般は人間でも猫でも1)。

2.3 2モーラの人名に「さん、はん、やん」がついた場合の音調について。

なお、「はん、やん」は古くさくて<真筆>は使わないが、一応全員の話者のアを考える。「さん、はん、やん」とも人名のアを変えることはない。

3語のうち、「やん」は、男性人名の略称で、かつ2モーラのものにのみつく。アは τ_2 。<真>も無理やり言わせれば τ_2 。例：武雄(0)→タケ(τ_2)、タケヤン(τ_2)

「はん、さん」は、モーラ数に関係なくつく。但し、「はん」は、その直前のモーラの種類（「アエオ段の音」のみ、「アエオ段+引き音」も含む）による。牧村(1979)を参照。但し、杉本書店刊行の旧版や前田(1961など)と比較。この条件は前田氏の発見か。

また、2モーラの女の人名はオ付きで、オ～サン、オ～ハンが普通である。例：キヌ(1)、オキヌサン(τ_2)、オキヌハン(τ_2)、(上記のように、「キヌ」は τ_2 も有りうる)。

執筆者

徳川宗賢	(大阪大学文学部)	教授)
岸江信介	(大阪市立西第2高等学校)	教諭)
尾崎喜光	(国立国語研究所言語行動研究部)	研究員)
真田信治	(大阪大学文学部)	助教授)
中井幸比古	(香川大学教育学部)	講師)
村中淑子	(大阪大学大学院文学研究科)	学生)
郡史郎	(大阪外国語大学)	助教授)
添田建治郎	(山口大学人文学部)	助教授)
都染直也	(甲南大学文学部)	講師)
陣内正敬	(九州大学言語文化部)	助教授)
木部暢子	(鹿児島大学法文学部)	助教授)

方言音調の諸相 - 西日本 - (2)

文部省重点領域研究「日本語音声における
韻律的特徴の実態とその教育に関する
総合的研究」(略称『日本語音声』)
研究代表者・杉藤美代子
1990年度(平成2年度)
総括班刊行書

1991年3月発行

編者(代表者) 大阪大学文学部 徳川宗賢

発行(事務局) 大阪大学文学部 真田信治

〒560 豊中市待兼山町1-1